第64回全国植樹祭
植樹する森林について
(案)

□森林生態系と生物多様性を取り巻く現状

・森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるためには、森林・林業の循環による持続可能な森林づくりが必要
・持続可能な森林は、健全で強固な森林生態系によって維持・増進され、また、その生態系も、豊かな生物多様性に支えられている。
・しかし、今日、日本の生物多様性は、その豊かさが失われる危機にあるホットスポットとして、世界から注目されている現状
・その「生物多様性損失の危機」は、いずれも人間活動やその影響が原因となって引き起こしたものであり、
①「開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生息地の減少」
②「里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下」
③「外来種などの持ち込みによる生態系の攪乱」　　に大別されている。

□植樹の目的

・適切な植樹活動が、生物多様性損失の危機にある森林を、再生・増進させ、未来へつなぐことができることを全国に発信

□植樹予定地の現況　（生物多様性損失の危機にある森林）

・鏡 ヶ成 ：森林の開墾地。利用されなくなって十数年経過した現在でも、侵入した木本類は低木が主体。（上記①に該当）
・花回廊 ：利用されなくなった里山。草木が乱雑にしげった「やぶ」状態。（上記②に該当）

□目標とする森林の姿

・森林生態系の健全性を維持・増進しつつ、その活力を利用して、県民の多様なニーズに永続的に対応できる森林

□森林づくりの手法

場所	方向	植栽樹種	施業・管理の考え方
花回廊	・里山としての利用を目的に森林づくり ・県民が森林管理を体験する場所を提供 ・多様性の高い森林は、現状のまま自然林として生かす。	・燃料や堆肥等バイオマス利用が可能な樹種を植栽 ・カブトムシやクワガタ等昆虫の好む樹液を出す樹種を植栽 ・キノコや果実のなる樹種を植栽 ・花や紅葉等の美しい樹種を植栽 ・痩悪地には松食い虫抵抗性アカマツを植栽（見本林）	・植栽木のメインは里山林を構成するクヌギ・コナラ・クリ等のナラ類とし、薪やシイタケ原木の森林として利用 ・身近で美しい花木も植栽し、楽しみながら利用 ・原道を利用しながらの森林利用目的に応じたゾーン分けを実施 ・更新を確保するため、下層植生を刈り払い林床を明るく管理 ・植栽木が成長し伐採が行われた後は、天然更新に移行 ・かつて、里山林を利用・維持してきた地元住民の役割を、森と親しみながら共生してゆくライフスタイルを指向する県民に委ねる。（ストーブ用の薪やシイタケ栽培用の原木を希望する者に、毎年何本かの伐採を許可する等により、県民に広く開放等）
鏡ヶ成	・放置された開墾地を森林状態に戻す森林づくり ・森林の早急な回復 ・国立公園内の自然や厳しい気候等現地に配慮	・林内に既に成立する自然ばえを可能な限り多く残置（中低木を含む。） ・現状では被圧されているが、厳しい環境条件に適合し、周辺森林には、自生している高木性樹種を植栽	・植栽木のメインは現地適性の高いナラ類とし、ミズナラ、ブナ、ホウノキ、トチノキ、オオヤマザクラ、ミズキ、カエデ類等を混植（特徴的な土壌と厳しい気候のため、現地周辺で自生している樹種を植栽） ・更新を補助するため、カヤやウツギの根を取り除き、地表かき起こしを行う。 ・階層構造の発達した森林への早期誘導を目指して植栽を行うが、雪害防止のため、林内に成立する樹種を可能な限り残しながら育成。 ・雪害の心配がなくなる時期に、被圧解消のための中低木性樹種の除伐を行う。それ以降は、必要以上の管理は行わない。